

【様式1】

自己評価書

四日市市立 四日市幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな心と丈夫な体の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戸外で進んで固定遊具に繰り返し取り組んだり、おにごっこやしっぽとりなどの遊びを楽しんだりする中で、十分に体を動かして遊ぶ姿が見られるようになってきた。アンケートでは「体を動かす遊びに興味をもつようになりましたか、または体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」の項目で保護者、職員ともに「そう思う」「概ねそう思う」が合わせて100%と高い評価だった。今後も引き続き、「体を動かすことが好き」と思えるように内容を工夫して体づくりに取り組んでいきたい。</li> <li>・ 子どもの姿に合わせて先生の言葉かけや関わり、環境について検討した。特に竹馬の取り組みでは、興味を持つ時期や子どもの様子に合わせて方法を見直したことで、意欲的に取り組む姿が見られた。</li> <li>・ 昨年度の反省から、体づくりを計画的に進め、環境を整えた。今後は、遊びの中で体のどの部分を使っているかを確認しながら、意識して取り入れていくようにする。</li> <li>・ 自然との関わりや遊びなど実体験を通して、様々な発見や気づきが得られるよう飼育栽培のコーナーなど、環境設定を工夫してきた。子どもの興味関心が深まり、植物を自分で調べようとしたり、生き物を大切にしようという気持ちが育った。また、園内の木々や草花、果実など身近にある植物の様子にも関心をもって関わるようになった。</li> <li>・ 畑などの栽培活動の中で、見たり、においを嗅いだり、触ったりするなど五感を通して体験したこと、また友だちや先生と楽しい雰囲気食べられるよう工夫したことで、「食」への意識が高まった。</li> </ul>	

重点目標2	人とかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人が自分の思いを表現できるように、丁寧に受け止めてきた。安心して過ごせるよう寄り添ったり、子どもの思いをつないでいたりしたところ、表情が豊かになり安心して生活し、先生や友だちと関わる姿が見られるようになってきた。アンケートでは「園が好きで登園を喜んでいますか」「先生や友だちとかわるうれしさや楽しさを感じていますか」の2項目において、保護者、職員ともに「そう思う」が100%と大変高い評価だった。今後も先生との信頼関係を基盤に安心感をもって園生活が送れるように努めていきたい。</li> <li>・ いろいろな場面で先生から進んで挨拶してきたことで挨拶をかわす心地よさを感じ、来客の時や園外保育に出かけた時に、自分から挨拶や言葉をかけることができるようになってきた。自信をもって大きな声で挨拶したり言葉をかけたりする姿が見られる。</li> <li>・ 少人数の良さを生かして保育する中で、一人一人の育ちを丁寧に見ながら関わってきた。また混合クラスで年長児と年少児が共に生活する中で、互いに刺激し合えるよう保育内容を工夫してきた。自然と関わり合う中で、年長児に憧れを持ったり年少児に優しく接する姿が見られる。</li> <li>・ 遊びの中で自分の思いを表現したり相手の思いに気付いたりできるよう、子どもたち同士で話し合う機会を大切にしてきた。自分たちでルールを相談したり、会話を楽しんだりする姿が見られるようになった。更に聞く姿勢や態度を身につけていけるように取り組んでいきたい。</li> </ul>	

重点目標 3	地域・家庭との連携、協働	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>・家庭と日々の対話を大切にしたり、おたよりやHPなどで、毎日の園の様子を伝えることを積み重ね、子どもの育ちを共有することができた。アンケートでは「自分のことは自分でしようとするようになりましたか」の項目で「おおむねそう思う」「あまりそう思わない」の回答が保護者、職員共に見られ、更なる定着が必要と思われる。園での様子がわかるよう、保育参加の機会を設けたり、伝え方を工夫したりなど、引き続き、家庭と連携しながら生活習慣が定着するように取り組んでいきたい。</p> <p>・本年度より始まった「体験型幼児教育活動事業」「こども芸術体験事業」が充実したものとなるように内容を職員で検討して実施してきた。いろいろな体験ができるように地域の人材や施設など活用し、運動遊び、わらべうた、陶芸体験、フラワーアレンジメントなど体験が生活や遊びの中につながるような活動内容を行い、実施後も意識して取り組んだ。子どもたちが体験したことを自分から遊びの中で取り入れて楽しむ姿がみられた。</p> <p>・保育園児や小学生、中学生との交流やふれあい、地域の行事への参加など、地域とのつながりを感じる場面をたくさん経験できた。保幼小中の職員同士で、計画的に内容を検討し実施できるように取り組んでいきたい。</p>	

重点目標 4	教育活動の充実	4
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>・毎日の保育を振り返り、職員全体で話し合うことで、子どもの姿を共有することができた。更に、子どもの内面や育ち、先生の関わりや環境構成について検討し、ねらいや内容を見直し、保育に生かしていけるように努めた。</p> <p>・園内研修では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて教育課程の見直しを毎月継続して行い、子どもの姿から教育課程や指導計画を考えてきたことで、保育の質を高めることができた。</p> <p>・来年度は、今年度の教育課程の見直しを踏まえ、毎日の保育の工夫等についても園内研修に位置づけて計画的に研修を進めていきたい。</p>	

## 2 改善方針

- ・園や小学校、地域との交流などの園外での活動は計画的に行ってきたが、更に身近な地域を知ったり歩いたりする機会がもてるよう園外保育を計画的に進めていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類となり、運動会や発表会などの持ち方について検討を進めた。更に給食の時間など持ち方を工夫しながら参観を行うことで保護者との連携を深め、子どもの成長をともに考えていけるようにしたい。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富田幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	思考力の芽生えを育むために	4
主な方策 成果と課題	<p>○幼児が「楽しそう」「やってみたい」という気持ちができるように、教師自身が遊びを楽しみ、幼児の思いに寄り添ってきたことで、好きな遊びややりたい遊びを見つけ、主体的に遊びを楽しんでいくようになった。</p> <p>○「なぜ? どうして?」と感じる幼児の言葉を受け止め、一緒に考えたり思いを伝え合いながら遊びを深めていく機会を大切にしてきた。試行錯誤する姿や考えを様々に表現する姿を肯定的に受け止め関わることで、よりイメージを膨らませながら継続して遊びを楽しむようになった。</p> <p>○それぞれの幼児が苦手だと感じることに對し、継続的に取り組むことができるように環境を工夫したことで、幼児自身で目標を作り挑戦するようになった。さらに、友だちと一緒に取り組むようにしたことで、互いに刺激し合い乗り越えていく達成感と自信につながった。</p>	
重点目標 2	豊かな心とたくましい体を育むために	4
主な方策 成果と課題	<p>○こども園との合同保育のため、歩いていく機会が増えた。季節を感じたり、安全に道路を歩くことを積み重ねてきたことで、心身とも成長することができた。</p> <p>○幼稚園では少人数で楽しめる戸外遊びを中心に取り組み、体を動かすことに自信が持てるようになった。こども園では集団遊びの中で友だちと楽しさや悔しさなど気持ちを共有したり、「もっとやりたい」という意欲がもてるように関わってきた。集団で身体を動かして遊びを楽しむようになった。</p> <p>○基本的な生活習慣については、それぞれの姿に合わせて丁寧に指導をしてきた。見通しをもちながら自分でしようとする意欲が育ってきた。</p> <p>○栽培活動を通して、野菜や花の生長に関心を持つ機会を作ってきた。疑問に思ったことは図鑑で調べる姿や遊びの中に取り入れていく姿が見られるようになった。</p> <p>○栽培・収穫・調理体験を通して、食べることに興味・関心が広がり、初めての食材も食べてみようという意欲につながった。</p> <p>◇遊びや生活において多様な動きを取り入れることを意識して環境を工夫する必要がある。</p>	
重点目標 3	共に輝く子どもを育むために	4
主な方策 成果と課題	<p>○ごっこ遊びや製作活動などで友だちと一緒に試行錯誤したり、協力したりしてイメージしたものを作っていき過程を大事にし、つながり合う機会を作ってきた。いろいろな思いや考えがあることを感じたり、受け入れたりしながら一緒に遊びを進めていく充実感や満足感を味わうことができた。「楽しかったね」「明日も一緒に遊ぼう」と期待感をもちながら過ごす姿が見られるようになった。</p> <p>○一人一人が安心して自分の思いを表現できるように聞く姿勢を大事にしてきたことで、受け止めてもらえるという安心感を持てるようになった。</p> <p>○自分の思いを話したり相手の話を聞いたりする機会を繰り返し作ってきた。自分たちで話し合い遊びのルールを作ったり、意見の食い違いがある時には納得がいくまで話し合う姿が見られるようになった。</p>	

重点目標 4	家庭、地域との連携、協働を推進するために	3
主な方策 成果と課題	<p>○地域の祭りである納涼祭に参加し、地域に根差した活動に親しみが持てるようにした。地域の方から鯨船祭りの話を聞いたり、ミニ鯨船と一緒に動かしたり、くうちゃん音頭を踊ったりするなどして地域の方や祭りに興味・関心を持つ機会になった。</p> <p>○毎朝登園を見守っていただく地域の方や、散歩の際に会う様々な方とのあいさつを大切にしてきた。自分たちからあいさつをしたり、会話のやり取りをしたりする姿が見られるようになった。温かい言葉やまなざしに見守られる体験を通して、安心感や自己肯定感を高めることができた。</p> <p>○幼児の様子を写真で掲示し、写真を見ながら活動から身につく力や学びを伝えることで保護者と幼児の成長を共有することができた。</p>	

重点目標 5	職員の資質向上のために	4
主な方策 成果と課題	<p>○スーパーバイザー訪問研修を通して子ども理解について深く話し合い、各年齢にあった遊びの環境や再構成の仕方を学び、実践することができた。</p> <p>○学びの一体化研修では、近隣の小・中・園が互いに公開保育と事後研修を行ったことで、先を見通しながら今の育ちを十分保障していくことの大切さを学ぶことができた。</p> <p>○定期的な園内研修を通して、各保育教諭が学んだ外部研修を報告したり、事例を出して議論したりする機会を作ってきた。互いの学びが確かなものになり保育教諭一人一人の資質向上につながった。</p> <p>○幼児教育センターの研修を保育教諭自身が主体的に計画・受講していったことで、積極的に保育・教育に活かしていくことができた。</p>	

## 2 改善方針

<p>○集団の保障と少人数を生かした保育の充実のため、それぞれの環境構成の工夫と教材研究を継続していく。</p> <p>○専門の講師を招くなど多様な体の動きを意識した体験活動を継続的に取り入れ、意識して日常の教育・保育につなげていく。</p> <p>○毎月の素話や絵本の読み聞かせ、芸術体験や人形劇などさまざまな体験活動が、日々の遊びにつながる教育・保育実践に取り組み、豊かな感性を育てていく。</p> <p>○近隣の園や小・中学校とともに研修を進め、地域の強みや課題を共有していく。</p>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 海蔵幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	3
主な方策 成果と課題	<p>(方策) 幼児がいろいろなことに興味関心を持ち、「楽しかった」「またやりたい」と思える遊びの充実と保育者の関わり、PDCAサイクルの構築 幼児が心を動かして遊ぶ中で、友だちと共感したり考え合ったりできる環境の工夫 (成果と課題) ○保育者が一緒に遊ぶ中で幼児の興味関心を探り、遊びの提案や環境構成の工夫を行ったことで5歳児を中心に友だち同士で遊びを進め楽しむ姿があった。いきいきと遊ぶ5歳児の姿に4歳児は憧れの気持ちが芽生え、共に遊ぶ中でいろいろな遊びへの経験を広げ、興味関心を深めていくことができた。 ○保育記録からの振り返りを通してPDCAサイクルを充実させることで明日への保育へとつなげたいと取り組んだ。幼児の姿を捉え保育者の関わりや環境の工夫など職員間で話し合うことができた。 ○様々な体験を通して経験したことを遊びや生活の中で活かしていけるよう、保育者が意識し環境を工夫していく。 ○遊びの中での葛藤体験の場を捉え、つまずいて上手くいかない経験も次につなげていけるような関わりをしていく。</p>	
重点目標2	たくましい体としなやかな心を育む活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>(方策) 幼児が体を動かして遊ぶ楽しさを味わえる経験を豊かにするための活動や環境の工夫と保育者のかかわり 幼児が遊びや活動を通して自分なりの目標に取り組み、あきらめずにやり遂げる達成感や自信を育む (成果と課題) ○保育者が幼児と一緒に遊びを楽しみ、積極的に体を動かして遊べるように意識してきたことで、戸外で体を思いきり動かしながら遊びを楽しむ姿があった。幼児の発達に応じた戸外遊びを取り入れたことで、繰り返し楽しむ姿がみられた。 ○自分なりの目標に取り組む幼児の姿を支える関わりを丁寧に行ってきたことで、粘り強く挑戦し、できる喜びや充実感を味わう姿につながった。 ○園での野菜の栽培・収穫など食育活動を行う中で、幼児が自ら野菜の世話をし、自分たちで育てている意識をもつことができた。いろいろな食材に興味を持ち食べる意欲につながった。 ○固定遊具や縄とび・ボール遊び等いろいろな楽しみ方があることを保育者が意識し、スモールステップで幼児が「やってみよう」という意欲につながる関わりや環境の工夫を考えていく。 ○引き続き園外保育を計画し、歩く経験や地域に出向く機会をつくっていく。</p>	

重点目標 3	人とかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>(方策) 自分の気持ちを表現し、思いを伝え合うことを大切にすることで、受け止め合える関係づくりをめざす 気持ちを通わせた挨拶の推奨</p> <p>(成果と課題) ○保育者が一人一人の思いを受け止めたり、幼児同士の話し合いを見守ったりする関わりを続ける中で、自分の思いを相手に伝えたり聞いたりし、幼児同士が相談し合う機会が増えた。言葉で伝える大切さを幼児自身が感じると共に、友だちの言葉にならない表情や行動に気づき、気持ちを大切にするやり取りがみられるようになった。 ○保育者が積極的に挨拶をすることで、幼児も自ら元気に挨拶をし、友だち同士挨拶をする姿が増えた。 ●園児数が少ないため、保育者が関わりすぎてしまうこともあったので、保育者は幼児自ら動き出す姿を「待つ」ことを意識して取り組んでいく。 ●自分の気持ちの伝え方について、子どもの発達に合わせた関わり方を職員間で話し合い、共有し実践していく。</p>	

重点目標 4	地域との連携と子育て支援の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>(方策) 園外保育に出かけ、自分たちの住んでいる地域を知り地場産業にふれる 保護者・保幼小中・地域との連携を図る</p> <p>(成果と課題) ○窯業研究室での虫取りや、菖蒲園見学、万古の里会館での絵付け体験に親子で参加するなど地域の自然や伝統産業に触れ、親しむことができた。保護者も共に参加することで自分たちの住んでいる街にある文化を知る機会となった。 ○社協との交流会、保幼交流、幼稚園交流など様々な人と関わる経験ができた。 ○月に1回5歳児が地域の方に素話を聞かせていただいたことで、話を聞いてイメージを楽しむ力が身についてきた。 ○学びの一体化公開保育では、地域の保育園や小中学校の先生に来ていただき、幼稚園を知ってもらう機会となった。幼稚園での遊びの中の学びを発信していく力を身につけ、小学校以降にどのようにつながっていくのかを共に話し合う機会の必要性を感じた。 ○園の活動や遊び会の情報などをSNS等も使い発信の方法を工夫していく。</p>	

## 2 改善方針

・子どもたちが「やってみよう」と一歩踏み出すきっかけづくりや「やってみたくなる」環境を工夫し、「楽しかった」「またやりたい」と次の日につながる遊びの充実を図る。

・戸外遊びだけでなくテラスやホールなども活用し、巧技台やカラーボックス・フープ・マット等を使い幼児が主体的に体を動かし挑戦する環境を設定し、いろいろな体の動きを経験できるように取り組んでいく。

・4・5歳の混合保育の良さを活かし、互いに関わり合う中で育つ力を大切に保育をすすめていく。

・今後も園外活動や様々な人との交流の場を計画し、幼児の実体験を大切に、遊びや生活に取り入れていく。

・園内研修や人権研修の充実を図り、保育者自身の人権感覚を磨いていく。日々の子どもの様子の伝え合いだけでなく、幼児の姿をどう捉え、今つきたい力を明確にし、そのための保育者の援助や環境について考え共有していく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 泊山幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○幼児一人一人の興味・関心を探っていきながら、思わず遊び出したくなる環境作りに努めた。4歳児では、友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ姿や遊びの種類が増えた。また、5歳児では、友だちと思いや考えを伝え合いながら、同じ目的をもち継続して遊びを楽しむ姿が見られるようになった。</p> <p>○弦楽器や吹奏楽の演奏を聞いたり、むすび座の人形劇を見たりする等、芸術鑑賞の機会を持った。感動体験を得たことで、ごっこ遊びや表現遊び等につながった。幼児同士が考え合い、生き生きと活動を進めていく姿が多く見られるようになった。</p> <p>○様々な経験を通して、幼児同士のつながりが深まった。『一緒に遊びたい』と思える友だちができ、夢中になって遊びこむ姿につながった。</p> <p>○園庭にある自然との出会いを大切にしてきた。幼児たちが季節を感じ、感動体験を得る機会を作ることができた。</p> <p>◇行事が、2学期に多く集中した。幼児が継続してじっくり遊びこむために、今後は、行事の内容や実施時期を検討する必要がある。</p> <p>◇園外にも出かけ、自然に触れる機会を作ることが大切である。安全性を考慮した上で、どのような活動や経験が可能であるのかを検討していく。</p>	
重点目標 2	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○基本的な生活習慣において、身の回りのことを自分でしようとする幼児が増えた。</p> <p>○友だちと体を動かしたり、夢中になって遊んだりすることの楽しさを味わえるような環境構成を工夫してきた。また、教師も遊びの一員となり、幼児たちが思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようかかわってきた。そのことで、友だちとルールのある遊びを楽しむ幼児の姿が増えた。</p> <p>○体験型事業で鉄棒の指導をもらった。それがきっかけとなり、鉄棒をはじめとする様々な遊具に挑戦しようとする幼児の姿が増えた。また、“やってみたらできた”という経験が自信となり、運動遊びの経験の幅が広がった。</p> <p>○教師が進んで挨拶をすることを心掛けてきた。自分から挨拶をしたり動作や表情で表現したりする幼児の姿が増えた。</p> <p>◇雨天時にも体を動かせる環境設定について検討し、体づくりを進めていくことは必要である。</p> <p>◇挨拶をしようとする幼児は増えたが、呼びかけに対する返事については、気持ちを大切にしながら取り組みを進めていく。</p>	

重点目標 3	高い自尊感情を持つ幼児の育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○遊びや生活の中で、一人一人の幼児のありのままの姿をしっかりと受けとめ、自己肯定感を高めていくようにした。“自分は大切にされている”という安心感をもち、他者にも気持ちを向ける姿が少しずつ見られるようになった。</p> <p>○友だちとの関わりの中で、思いを伝え合う機会を大切にしてきたことで、自分の気持ちを話したり、相手の話に耳を傾けたりする姿が増えてきた。</p> <p>○遊びや行事に向けての活動の中で、幼児たちが友だちの良さを見つけ、認め合う機会を作るようにした。友だちに認めてもらうことで、自分に自信をもち、主体的に活動しようとする姿が増えた。</p> <p>○“友だちと一緒にいたい”“みんなでやり遂げたい”という気持ちが膨らんだ。友だちを気にかけて、思いを寄せて言葉をかけたりする姿が見られるようになった。</p> <p>○行事の取り組みや日々の遊びの中で、異年齢の交流の機会を作った。異年齢の関わりが多く見られるようになった。憧れ・自信・自覚等を感じ、かかわり合うことができた。</p> <p>○中学生職業体験・中学生保育実習・小学校見学・保幼交流・消防車見学等、昨年度よりも多く実施することができた。様々な人と触れ合うことの楽しさを感じ、“こんなふうになりたい”という憧れの気持ちをもつことにつながった。</p> <p>◇保護者アンケートの「よいことや悪いことを自分なりに考える」において、保護者の評価が低かった。人とかかわる心地よさや、自制心等を育む取り組みを今後も充実させていく必要がある。</p>	

重点目標 4	地域・保護者との連携を蜜にし、協働する教育の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○5歳児が梅ちぎりに出かけ、地域の方との交流をもつことができた。また、園外保育で地域に出かけ、地域の自然や人に親しむことができた。</p> <p>○送迎時に遊びの様子や幼児の成長の姿等を保護者に伝えたり、幼児の姿を便りやホームページ、掲示物等で発信したりした。また、保護者から幼児の家庭での様子や子育ての悩み等も聞き、幼児への関わり方を共に考え、連携を図った。</p> <p>○運動会で保護者参加競技を行ったり、陶芸体験や飾り巻き寿司体験を実施したりした。保護者との触れ合いの機会を多くもつことができた。</p> <p>○園児があそび会で歌を歌う機会を作り、地域の未就園児や保護者との交流を図った。園児の姿や幼稚園の取り組みを知ってもらう機会となった。</p> <p>◇家庭との連携では、幼児の成長を共に喜び合い考え合えるようなやりとりを今後も進めていく。</p> <p>◇地域・近隣の校園との交流を工夫していく必要がある。</p>	

## 2 改善方針

- <重点目標 1>
- ・行事の内容や時期等を検討し、幼児たちが友だちと一緒にじっくり遊びこむ時間を確保していく。
  - ・実施方法を工夫しながら、園外保育や地域との交流の機会を増やしていく。
- <重点目標 2>
- ・ホール等の環境も活用しながら、雨天時にも幼児たちがのびのびと体を動かして遊ぶことができる環境設定を工夫していく。
  - ・幼児たちが挨拶や返事をする大切さや心地よさを味わえるような場面を大切にする。
- <重点目標 3>
- ・自己肯定感を高め、人と関わる心地よさや自制心等が育まれる取り組みを引き続き進めていく。
- <重点目標 4>
- ・幼稚園から積極的に働きかけ、地域や保小中と連携を図り、教育活動を充実させていく。
  - ・発信の方法を工夫しながら、幼稚園の取り組みを伝える機会を引き続き作っていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 内部幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

4～1の数字で評価記入

重点目標1	★げんき★ 健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○基本的な生活習慣については、個々の幼児に合わせて丁寧に働きかけ続けることで自立に導くことができた。</p> <p>○毎日、幼児の興味のある体操やダンスなどの体遊びを取り入れたり、運動遊びの設定の場所や用具を工夫したりすることで、体の使い方を意識すること、相手との距離感をつかむことなどにつながった。保護者アンケートで『体を動かすことに興味をもったり好きになったか』の項目で「そう思う」が96%「おおむねそう思う」を加えると100%の方から評価を得ることができた</p> <p>○保育参加では、講師を招待してサッカーやヨガ教室などを実施し、保護者も一緒に様々な体の動きが経験できた。4歳児が5歳児に憧れの気持ちをもち刺激を受け、おにごっこなど異年齢で体を動かして遊ぶ機会が増えた。</p> <p>○野菜の栽培では、野菜の生長を観察しながら世話をすることや、収穫や調理を体験することができ、食への興味につながり意欲的に食べる姿が見られた。また、食育だよりを毎月発行し、健康な体づくりを意識できるような発信ができた。</p> <p>◇園外保育については、年度当初に年間の計画を行いさらに充実できるようにしたい。</p> <p>◇生活のリズムは各家庭で異なるので、それぞれの状況を配慮しながら、健康な体づくりにつながるような発信を今後も継続していく。</p>	
重点目標2	★えがお★ 様々な人と関わり合いながら自己を発揮し、共に生活を作り出す力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○保育者から積極的に挨拶をするように心がけ、言葉だけでなく一人一人の表現を受け止めていくことで、自分から進んで挨拶をする姿が増えた。</p> <p>○保育者が幼児からの発信を大切にし、自分なりの言葉や表現で伝えようとする姿を認めることや、自分の思いが伝わる経験を積み重ねることで、安心して自分を表現する姿につながった。また、保育者がクラスに関係なくすべての幼児に関わることで、生活や遊びの中で異年齢の関わりが増えた。</p> <p>○毎月、親子絵本貸し出し日を設けたり、外部講師による読み聞かせなどを行ったりして絵本にふれる機会が増えた。また園の便りで、幼児の興味に合わせた日々の読書活動や幼児の姿の発信に努めた。生活習慣アンケート結果でも家庭での読み聞かせの機会が増え、親子のふれ合いも意識する取り組みとなった。今後も大切にしていきたい。</p> <p>◇今後は、保護者と連携して心地よい挨拶を広め、幼児同士や地域の方にも進んで挨拶する姿へとつないでいきたい。</p>	
重点目標3	★やるき★ 身近な環境に興味や関心を持ち自ら考えてかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○様々な素材を準備することで幼児が自らやってみようとする姿が見られ、遊びの充実につながった。</p> <p>○幼児のやってみたいことを受け止めていくことで、目的に向かって試したり、工夫したりする姿が継続して見られた。</p> <p>○園内の自然を活かして遊びに取り入れるなど自然物に触れる機会をもつことができ興味につながった。</p> <p>○小動物を飼育する中で命の大切さを感じ、大事にしようとする気持ちが育った。</p> <p>○園内でドキュメンテーションを活用した事例検討や、大学と連携した公開保育や研究協議などを行い、専門性を磨き幼児理解を深めることができた。遊ぶ中で培われる力について新たな気づきや自主性を育てる適切な援助について学ぶことができた。</p>	

重点目標 4	保護者・地域との連携・協働	3
主な方策 成果と課題	<p>○年間を通して、地域の方と畑の栽培活動などの活動を計画的に進める中で、地域の方との交流を深めるだけでなく、幼児が大切にされていることを感じる体験となった。</p> <p>○今年度、たくさんの地域の方に協力いただき、新たに講師として招き活動を進めることができた。婦人会の方に地域にある『内部音頭』を教わり、住んでいる町に親しみを感じる様々な体験ができ、地域の人との出会いの場となった。</p> <p>○降園時などに写真掲示と共に幼児の姿をコメントで書くことで、園での姿やどのような育ちにつながっているかなどを伝える機会となった。</p> <p>◇近隣の保育園とは交流を進めることができたが、小中学校との交流の機会をもつことが少なかった。園から積極的に発信し交流の機会を増やししながら、就学前に期待がもてるような取り組みを計画していきたい。</p>	

## 2 改善方針

- 保護者に伝わりやすい掲示や便りなどを引き続き心がけ、幼児の育ちについて園と家庭で共有し、豊かな育ちにつながる連携した取り組みを進めていく。
- 園外保育は、年度当初から地域や自然に親しんだり、充実したりできるように計画を作成する。
- 来年度以降も親子での絵本貸し出し日や読み聞かせなど、絵本に触れ合う機会を工夫していく。
- 園児と遊び会の子と一緒に活動する機会をつくり、園の教育活動を広め、理解や期待につなげていく。
- 保幼小中の職員同士は、定期的に「学びの一体化」を進める研修を実施しているが、連携した学びや小学校との接続したカリキュラムについても話し合いがもてるように働きかけていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 川島幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	心身ともにたくましい子どもを育てる	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ホールや空き部屋を活用することで、天候に関わらず体を使って遊べる環境設定を行ってきた。体を動かす遊びや活動をすすんで行う姿が見られた。</li><li>・いろいろな活動の中で、失敗を恐れずに繰り返し取り組む楽しさや充実感を味わえるよう関わってきた。経験を重ねることで友だちと一緒に楽しんで粘り強く、取り組もうとする姿になった。</li><li>・栽培活動の中で、植物の不思議に触れたり、生長する姿を発見したりして実体験が出来るように取り組んだ。収穫をして食べることで、興味や関心を持つことができ、旬の物を知る機会を作ることができた。自分たちで野菜の看板を作ること、栽培物にさらに関心を持つことができた。</li><li>・少人数保育の中で、一人一人の幼児の興味・関心や思いの違いを受け止めてきた。幼児同士で遊びが展開していくような、教師の援助の在り方を今後も考えていきたい。</li></ul>	
重点目標2	心を動かし、遊びに夢中になる子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・教師は、幼児の遊びたいという思いを受け止め、表現したいことが実現できるように取り組んできた。今後も、遊びを継続して楽しんだり、深めたりする姿につなげていきたい。</li><li>・外部講師を招いて、公開保育や実践討議を行ってきた。幼児の成長を継続的に見て助言をもらい、保育実践を振り返ることができ、翌日以降の保育実践につながった。</li><li>・やりたい遊びに熱中する姿があり、教師が刺激を与えることで遊びを展開していく姿が見られた。2学期後半には、幼児同士が協力して遊びを工夫して進める姿へと成長した。</li></ul>	
重点目標3	自分らしさを発揮し、豊かな関わりあいがもてる子どもを育てる	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・常磐中央幼稚園との合同保育を行ってきたことで、様々な友だちと関わる心地よさや、共に遊びを進めていく楽しさを感じることができた。</li><li>・初めて行く場所でも、自分を受け入れてもらう声かけや関わりがもてる経験を沢山した。幼児自ら様々な人と挨拶を交わしたり、関わったりする姿が見られた。</li><li>・教師が、幼児一人一人に表現の仕方が異なることを知らせ、関わってきた。幼児自らが、様々な考え方や気持ちがあることに気づき、互いを認め合える仲間づくりができた。</li><li>・遊び会の未就園児や、常磐中央幼稚園の4歳児と触れ合うことで、自分より年下の子への声掛けをすることもあり、優しい気持ちで関わる姿があった。</li></ul>	

重点目標 4	家庭や地域との連携	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に幼児の様子を伝える中で、家庭との連携を深めることができた。</li> <li>・月1回防災計画を立て実行することで、防災や命の大切さなどの意識を高めることができた。実際に災害が起きた時にどこまで対応できるのかを考え直し、訓練の工夫をしていく必要を感じた。</li> <li>・地域に出かけたり来園者と話をしたりすることで、地域の子どもとして見守っていただき、安心して園生活を過ごすことができた。</li> <li>・地域だよりを発行し、園の様子を知らせてきた。保護者や地域の方が魅力的に感じるような発信方法を検討したり改善したりして、ICTを使うなどの工夫をさらにすると良いのではと感じた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人一人の興味・関心を読み取り、教師からも遊びを知らせたり、刺激を与えたりすることでさらに遊びが展開して、より夢中になって遊びこむ環境づくりを進めていく。</li> <li>・外部講師に教えてもらったことを職員間で共有し、幼児理解を深めていく。</li> <li>・園内研修の充実を図り、保育力を高め、実践力を付けていきたい。</li> <li>・研修報告を行い、共に学び合い資質向上を目指していきたい。</li> <li>・地域のこども園や小、中学校と計画的に交流の機会がもてるように進めていく。</li> <li>・おたよりの発行方法など工夫し、ICT等を取り入れていく。</li> <li>・保育内容や行事等によっては、栽培活動の継続が難しいこともあった。先の見通しをもち、計画を立てて進めていく。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	夢中になって遊びこめる環境や体験を通した学びの充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 幼児の興味関心を探り、適切な環境構成に努めた。また、園生活(行事)や季節などに合わせて環境を整え、「遊びたい」という意欲を持ち「もっとこうしよう」と考え、工夫しながら遊びを展開していけるよう、環境の再構築を工夫した。</li><li>・ 幼児の興味関心にあった遊びの提案を行ったことで幼児の遊びが深まった。教師がすべて準備するのではなく、幼児からの発信を待ち必要な物を一緒に考えて環境を整えていくことで、気づき、考え、工夫する姿につながった。</li><li>・ 外部講師を招いて「幼児の遊びの中での学びについて」や「ドキュメンテーションの活用について」などの研修を行い、保育の質の向上を図った。更に遊びこめる環境について園内研修などで研究を深め、適切な環境作りに努めていく。</li></ul>	
重点目標 2	思いを伝え合い、共感し合い、互いを認め合う幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の気持ちや考えを様々な形で表現する姿を十分に受け止め、次第に言葉で伝えることが出来るように関わった。言葉にしたいが伝わらないもどかしさや、言葉で伝えようとする姿を受け止め、自分を認めてもらっている安心感が感じられるよう一人一人丁寧に関わった。</li><li>・ 5歳児では互いに思いを伝え合い、共感したり認め合ったりする姿が育った。4歳児ではまず自分を出し、友だちの存在や思いに気づく姿が育った。今後も、互いを認め合う姿が育つよう、教師が丁寧に一人一人と関わり、幼児同士をつなげていくことが大切である。</li><li>・ 日々の送迎時やたよりなどで、保護者に幼児の様子を発信し、共に育ちを支えていけるようにしていく。</li></ul>	
重点目標 3	友だちと一緒に、思い切り身体を動かして遊びを楽しむ幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 雲梯やブランコ、ジャングルジムなどの固定遊具で、繰り返し遊びを楽しむ中で体幹やバランス力などが育った。友だちの姿に刺激を受け、“ やってみたい・やってみよう ” という意欲や “ 出来た達成感 ” など味わうことが出来た。</li><li>・ 様々な種類の鬼ごっこを楽しみながら走ったり、友だちと一緒に体を動かして遊んだりする中で健康な身体作りが出来るよう活動内容や環境を工夫した。</li><li>・ 保護者アンケートでも身体づくりの項目は評価が高くA(そう思う)B(概ねそう思う)が100%であった。</li><li>・ 俊敏に動くことや手先を使うことなどについては遊びの中で工夫していくことが必要である。</li></ul>	

重点目標 4	楽しく豊かに自然と関わる幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の草花や虫などに触れたり、飼育や観察をしたりする中で、大切に扱おうとする気持ちが育ち、生き物への興味関心が深まった。</li> <li>・地域の畑での栽培活動で、様々な野菜や果物の生長を知り、育ててくれた方に感謝の気持ちを持つことが出来た。園内の畑では、水やりや追肥などの栽培活動や収穫した物を使って簡単な調理を体験し、みんなで食べることを通して食への興味関心が深まった。</li> <li>・地域の公園などに園外保育に出かける機会を増やし、地域や自然と触れ合う機会が更に増えるよう工夫したい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・一人一人が十分に自己を発揮し、互いに認め合えるよう丁寧に関わり、安心して過ごせる園づくりに努める。
- ・園内での生活や幼児の姿を日々の登降園時やたよりなどでわかりやすく保護者に発信し、共に成長を見守っていく。
- ・今後も幼児一人一人の育ちや姿について職員全体で共通理解し、教育、保育内容を考察し適切な援助について園内研修や日々の話し合いを大切に連携をしていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 下野幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体づくり	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育室やテラス、ホールにサーキット遊びのコーナーを継続して設定し、跳ぶ・わたる・くぐる・登る・ぶらさがるなどの動きを経験できるようにした。幼児の興味に合わせて設定するものを変えたり、見立てたりできるようにして、楽しみながら取り組めるようにした。初めは、ぎこちない動きがみられたが、繰り返し取り組む中で友だちから刺激を受け、意欲的に取り組むようになった。</li> <li>・ 地域の特性を活かし、身近で関心のある電車や駅を遊びに取り入れたり、忍者ごっこをイメージした運動遊びを取り入れたりしたことで、広い園庭を使い、遊びのイメージを共有して楽しむことができた。また、友だち同士アイデアを出し合って、工夫して遊ぶことができた。</li> <li>・ ダンスやキッズバイク、なわとび、跳び箱など、体を使う遊びの楽しさを感じられるよう体験活動を行った。好きな活動の中で自信をもって参加したり、その後の遊びに取り入れたりして楽しむことができた。</li> </ul>	
重点目標 2	豊かな表現力と人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の年長児の姿をモデルにして年長児が当番活動を行ったり、誕生会の司会をしたりして自信をもって行動する姿があった。その姿に4歳児も憧れの気持ちをもつようになった。</li> <li>・ 地域の方の協力があり、様々な活動や交流を持つことができた。特に田植えや稲刈り体験、脱穀や糶摺りなど手作業で行う経験ができ、米作りに携わる中で、地域の方の温かさに触れ、地域への愛着につながっている。</li> <li>・ 友だちと遊んだり生活したりする中で、自分の思いを伝えたり相手の思いに気付いたりできるように、保育者が思いを受け止め仲介をしてきた。また、具体的な場面を捉え、言葉や様々な表現方法で伝えられるようにしてきた。自分なりに相手のことを考えて行動する姿が見られるようになった。</li> <li>・ 地域の保幼小中の交流や体験活動、芸術体験などを通して、感動体験を共有したり、感じたことを素直に表現したりする場を多く持つことができた。</li> </ul>	
重点目標 3	家庭・地域・保小中との連携	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園との交流を密に持つことで、地域の同年齢の友だちと多く関わる事ができた。初めは新しい環境に不安を持つ姿があったが、保育者間で個々の幼児に対する理解を共有し、よりよい援助ができるようになってきた。その中で、友だちに対して自分の思いを伝えたり、主体的に行動したりできるようになってきた。</li> <li>・ 地域の方の協力があり、園内だけではできない自然体験や食育活動ができ、地域の人の優しさを実感をすることができた。</li> <li>・ 降園時に幼児の姿や様々な場面の写真を掲示し、幼児の育ちについて保護者と共有するようになってきた。また、保護者の思いを受け止め、よりよい支援について考えることができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・地域の保育園やこども園と継続的に交流したり、生活や遊びを共にしたりする中で、いろいろな友だちと関わる機会を持つようにする。その中で子どもの姿や育ち、課題を共有し、よりよい支援に活かしていく。
- ・地域の環境や自然を生かした園外保育の年間計画を立案し、自然の中での幼児の気づきをテーマにした研修を行う。そこから遊びや体づくりの充実を図る。
- ・親子での体験活動は、親子の触れ合いや自尊感情を育むことにつながったが、園として親子活動のねらいをより具体的に伝えることで、育みたい力を共有できるようにしていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 羽津幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	遊びの中の学び	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児の好きな遊びから興味関心が広がるような環境づくりをし、主体的に遊べるようにする。</li> <li>○外部講師を招き、陶芸・音楽・自然活動等を通して経験の幅を広げ、遊びの充実につなげていく。</li> <li>○飼育栽培や園内の自然を生かした活動を取り入れることで、自然物に興味を持ち、関心が深まるような遊び方を工夫していく。</li> <li>○アスレチックコースで体を動かしたり、冬には体が温まる活動（ぽかぽかタイム）を取り入れたりして、幼児が体を動かしたくなる遊びの環境を取り入れる。</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均台やはしご等の遊具で全身を使って遊べるよう設定したことで、体の使い方がしなやかになってきた。個々の幼児の姿に合わせ、遊びを見てやってみたくなるような設定を工夫したことで、徐々に活動に参加できるようになっていった。</li> <li>・遊びの中で思いを伝える方法を知らせたり、相手の思いに気づけるように関わったことで、自分たちで遊びを進めていく楽しさを感じられるようになった。</li> <li>・外部講師とともに体験した活動遊びに取り入れることができよかった。しかし、体験したことを取り入れる前に次の活動が入ってしまい、遊びが途切れてしまうこともあった。今後は内容を精査し、遊びの経験をつないでいけるようにする。</li> </ul>	
重点目標 2	人とのかかわり	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の思いを丁寧に聞き、関わることで幼児同士でも思いを伝え合えるようにする。</li> <li>○職員間で幼児への関わりや支援を共有し、言葉のやり取りだけでなく、表情や仕草、スキンシップ等を取り入れながら、人とのつながりを感じられるようにする。</li> <li>○自分の思いを表現したり相手の思いを聞く機会を持つことで、様々な思いがあることに気づく。</li> <li>○友だち関係の中で折り合いをつけたり、いろいろなことに挑戦しようとしたりする気持ちが持てるようにする。</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人とのつながりを感じられるようにすることを大切にしてきたことで、一人で遊ぶよりも友だちと同じものを作ったり一緒にドッジボールをしたりする等、自分から関わっていく子が増えた。</li> <li>・職員全員で共通の意識をもって幼児と関わるようにしたり、一人一人の発達に合わせた人との関わりについて考える機会を持つようにしたことで、個々の幼児の成長につながった。</li> <li>・幼児同士の関わりで折り合いがつかず気持ちの切り替えに時間がかかる時もあったが、次第に自分で調整して気持ちを立て直す姿が見られるようになった。幼児の気持ちの成長につながるよう今後も保育者同士で連携を図っていく。</li> </ul>	
重点目標 3	保護者・地域とのつながり	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者と日々話すことで、子どもの育ちを共に喜び、考えていく。</li> <li>○地域との関わりを持つことで交流を深め、地域に根差した園として、共に幼児の育ちを見守ってもらえるようにする。</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者と保護者同士の、子どもを中心に据えた日々の何気ない会話を大切にしてきた。保護者がクラスの子どもたちを温かく見守り、受け止めてもらうことにつながり、幼児が安心できる環境で過ごすことができた。今後も保護者との連携を大切にしていく。</li> <li>・庭園の見学やギター演奏をしてもらったりするなど、地域の方との交流を通して幼児の育ちを見守ってもらえることができた。今後も、幼児が地域に愛着が持てるような交流を続けていく。</li> </ul>	

重点目標 4	魅力ある園づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <p>○職員間で保育について日々話し合ったり、研修に参加したりすることで、経験を高めたり知識を深められるようにする。</p> <p>○おたよりやHPを通して遊びの姿や育ち、経験したことを具体的に保護者に伝えていく。</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加することでより幼児理解を深め、園内で一人一人に見合った関わりについて話し合うことができた。今後は個々の関わりについての話し合いと同様に、主体的な遊びからの学びについての園内研修をより深めていく。</li> <li>・普段の園での様子について、写真にコメントを添えて園内で掲示し、遊びや活動のねらいが伝わるよう工夫したことで、幼児の具体的な場面での成長の姿を知ってもらうことができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数での友だち関係や集団遊びの中で幼児の育ちについて考え、その中で友だちとつながり合うための援助の在り方を探っていく。</li> <li>・幼児が主体的に遊び、人と関わる力を伸ばしていく環境構成について検討していく。</li> <li>・外部講師による体験活動があることで、園児だけでなく、保育者にとって学びとなり、日々の保育を見直す機会となった。学んだことを保育に活かしていくことで、主体的な遊びや体験活動を通じた学びについて深めていく。</li> <li>・園外保育については昨年度より機会を増やすことは出来たが、特に夏場などは熱中症対策の為、出かけることが難しい時期があった。安全管理について再度見直したり、園外での経験がどのように幼児の育ちにつながっていくのか、ねらいを明確にしながら取り組んでいく。</li> <li>・公開保育や園内研修などを通して、保育を振り返ることができた。今後も計画的に園内研修を持ち公開保育や研修への参加も全職員ができるようにする。</li> <li>・遊びの中の学びについて、保護者や地域により分かりやすく伝えていけるよう、写真やおたよりだけでなくITの活用も今後検討していく。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富洲原幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊びの充実を図る。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が日々の幼児の遊びの姿を捉え、遊びだしやすい環境や落ち着いて取り組める環境を工夫してきた。4・5歳児混合クラスで異年齢でのかかわりが多く、互いに良い刺激となった。しかし遊びが継続・発展せず終わることもあった。</li> <li>・体験型活動事業、こども芸術体験等で体験したことが、活動後の幼児の興味関心や遊び方の工夫などにつながり、遊びの幅が広がった。</li> <li>・ドッジボール等の人数が必要な遊びでは、少人数がゆえに自ら選んでする活動では難しいと感じることがあった。一斉活動の中で取り入れるようにし、全員で遊ぶことで集団遊びでの経験を保障してきた。また保幼交流の活動に集団遊びを取り入れ、集団での遊びの楽しさを感じられるようにしてきた。</li> </ul>	
重点目標2	しなやかな心と身体づくりを推進する。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキット遊びでは”跳ぶ・登る・渡る”の動きに重点を置き、高さや内容に変化をつけ、多様な動きができるようにしたことで楽しみながらバランス感覚が養われた。また教師が積極的に戸外で一緒に体を動かして遊ぶことや体験活動での経験から、戸外遊びが好きになり、ボール遊びや縄跳び、固定遊具などにも意欲的に取り組むようになった。</li> <li>・幼児へのあたたかい声掛けを意識し、一人一人の思いを丁寧に受け止めてきたことで、どの子も安心して思いを出し、自信をもって活動するようになった。</li> </ul>	
重点目標3	人とかかわる力を養う。	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師はさまざまな幼児の表現から思いを汲み取り、代弁したり、伝え方を知らせたりしてきた。幼児が自分の思いが伝わる喜びを経験する中で、言葉で思いを伝えようとしたり、友だちの思いをくみ取ろうとしたりする姿が見られるようになった。</li> <li>・少人数のため、教師が子ども達にあえて待つ経験や葛藤体験がもてるように、保育の場面で工夫していく必要があった。</li> <li>・幼児同士の中での決めつけた見方や関係性等を見逃さず、一人一人の思いを受け止めながら、相手に気持ちを伝えたり、自分に置き換えて考えられるような投げかけをしたりしてきた。幼児が少しずつ友だちの思いに気がついたり、認め合ったりする姿が見られるようになってきている。</li> </ul>	

重点目標 4	家庭・地域との連携を図る。	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人との関わりの上での挨拶の重要性を保護者と共に考えられるようにしてきた。教師がさまざまな場面で率先して挨拶する姿を見せたり、その場に応じた挨拶の仕方を伝えたりすることで、幼児や保護者も自ら挨拶する姿が見られるようになってきている。</li> <li>・コロナ渦の影響もあり、生活経験の少ない幼児も多かったが、入園当初に一人一人に丁寧にかかわり、保護者との連携を大切にしてきたことで、生活習慣への自立が円滑に進んだ。</li> <li>・地域との交流の機会が増え、その様子を発信することで、地域の地場産業や祭りなどに保護者も関心をもつようになってきた。</li> <li>・富洲原地域の保育園や小中学校との交流の中で、子どもたち同士をつなげる関わりを意識してきたことで、興味関心や親しみをもつことができた。また小中学生への憧れや大きくなることへの期待をもつことができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数ならではの保育の在り方について学び合い、幼児の主体性を引き出し、周りの幼児とつながりながら夢中になって遊び込めるようにしていく教師の働きかけの工夫をさらに考え合っていきたい。</li> <li>・サーキット遊びでは楽しむことを大事にしながら教師が一つ一つの体の動かし方に視点を置くことにより、さらに幼児のしなやかな身体作りにつなげていきたい。</li> <li>・近隣園との交流で大きな集団を経験したり、教師が意図的に幼児が葛藤する経験を活動の中に組み込んでいったりする中で、さまざまな感情体験や話し合いの機会がもてるようにしていく。また幼児が大人に尋ねたことにすぐに答えるのではなく、幼児が自分で考えられるような返し方や、周りの幼児とつながられるような援助をしていく。</li> <li>・実際に幼児が住んでいる地域に足を運び、地域を知り愛着がもてるように計画的に園外保育を今後も行っていく。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 大矢知幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	コミュニケーション力を育てる (先生や友だちとやり取りをする楽しさを味わう。)	3
主な方策 成果と課題	<p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域の人に親しみを持ち、自ら挨拶をしたり、関わろうとしたりする。</li><li>・ 自分の思いを表出し、相手の思いに気づき、遊びの中で伝え合う心地よさを感じる。</li></ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ふれあいデーや体験事業、遊び会や保小中との交流など、様々な人と触れ合う中で、親しみをもって関わろうとする姿が見られた。</li><li>・ 異年齢間の遊びや活動を通して、4歳児が5歳児に憧れの気持ちを持ったり、5歳児が遊びの中で譲ったり、知らせたりする機会が増え、混合保育の特色を生かすことができた。</li><li>・ 幼児たちの思いを丁寧に受け止め、信頼関係を築いてきたことが、一人一人が自分の思いを様々な表現で表出する姿につながった。</li></ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 親しみをもって様々な人に関わる子どもの姿はあるが、挨拶につながらない面もある。まずは園内で幼児たちが挨拶を交わすことが心地よいと感じられるよう取り組んでいきたい。</li><li>・ 自己表出は個人差があるので、それぞれの気持ちを保育者が受け止め、幼児たちが互いの思いを聞き合えるような場面を意図的に作っていく。</li></ul>	
重点目標 2	体力のある子どもを育てる (進んで体を動かし、自分の体を大切にしようとする)	4
主な方策 成果と課題	<p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 様々な遊びの中で十分体を動かす。</li><li>・ 保護者と連携しながら、基本的な生活習慣の定着・食育の啓発を進める。</li></ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 幼児一人一人の姿や発達に合わせた様々な動きが経験できるよう環境構成(竹馬・鉄棒・縄跳び・サーキット・ボール遊び)を工夫したことで、幼児自身が進んで戸外で体を動かすことを楽しみ、自分なりに目当てを持って挑戦する姿も見られるようになってきた。</li><li>・ スーパーバイザーの研修会では、実践を通して幼児の姿を確認し共通理解を持ちながら幼児に関わることができた。</li><li>・ 食育活動については、栽培・収穫・調理・体験事業(そうめん・和菓子・焼き芋・親子飾り巻きずし)など通して食べ物への興味を持つ姿が見られた。みんなで楽しく食べることで少しずつ苦手な食材にも挑戦しようとする意識が持てるようになってきた。おたよりなど保護者への啓発を続けていきたい。</li></ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 基本的な生活習慣は必要性を知らせ、幼児が自分の体を守ろうとする気持ちが持てるように丁寧に声を掛けていく。</li><li>・ 安心安全なメディアの扱い方については、生活リズム講演会などで啓発してきた。今後も継続して啓発を図り外遊びの推進などを呼びかけていきたい。</li><li>・ 園外保育で十分歩く経験ができるよう、地域資源を見直しながら計画的に進めていきたい。</li></ul>	

重点目標 3	感性豊かな子どもを育てる (遊び込む中で充実感や達成感を感じる)	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作活動を楽しむ。自然に親しみ楽しむ。絵本などお話の世界を楽しむ。</li> <li>・地域産業に触れ、親しみ関心を持つ。</li> <li>・幼児が主体的に興味関心を広げ、夢中になって遊ぶ。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の興味関心を探り、適切に環境を整えてきたことで、幼児自身が主体性を持って遊びを楽しむ姿につながった。また、用具・材料を整えたことで、遊びに必要なものを創作し遊びに取り入れて楽しんでいる。初めてする遊びにも友だちの刺激を受けてやってみようとする姿が見られた。</li> <li>・体験型幼児教育活動事業により様々な地域産業に触れることを通して興味関心を持ち豊かな体験をする機会となった。(そうめん・和菓子・抹茶体験など)</li> <li>・年齢や季節に応じた読み聞かせや週1回の絵本の貸し出しやボランティアさんによる絵本の読み聞かせ(月1回)を行うとともに、親子絵本読み聞かせを2回持つことで絵本にふれることや読み聞かせを楽しんでもらえるようにした。</li> <li>・保育ドキュメンテーションによる保育活動の共有をし、保育者と保護者のコミュニケーションが増した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに遊びを展開することに興味関心を持ち取り組む姿があるが、継続してじっくり遊びが深められるよう人的・物的環境を見直していく。</li> <li>・ドキュメンテーションによる保護者の園への理解につながった。今後保育のねらいについても理解が深まるよう発信方法を工夫していく。</li> </ul>	

## 2 改善方針

### <コミュニケーション力を育てる>

- ・限られた園児数の中で、友だちとの関わりを意図的に設定しコミュニケーションの機会を保障していけるように、教育計画に組み込んでいく。
- ・遊びや生活の中で、身近な人の話を聞こうとする気持ちが育まれるよう、保育者自身が幼児理解を深め、丁寧に幼児の思いを汲み取り幼児同士がつながるようにする。

### <体力のある子どもを育てる>

- ・生活習慣に自ら進んで取り組む力が育まれるよう継続して必要性を幼児へ知らせ、自ら取り組む姿を十分に認め自信につなげる。また保護者とも連携して進めていく
- ・幼児の実態を把握しながら、様々な動きが経験できるよう研修で学んだことを生かし環境設定を工夫する。
- ・ふれあい遊び、鬼ごっこなどを年間計画に位置付け、友だちと体を動かす心地よさが感じられるようにする。

### <感性豊かな子どもを育てる>

- ・実体験を通した学びにつながる機会が幼児たちの遊びの中で持てるよう、園内研修を深めていく。
- ・遊びを豊かにするために、幼児一人一人の興味を探り、適切なタイミングで幼児の興味関心に沿った遊びの提案や場・用具・教材の提示ができるようにしていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立八郷中央幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	【あんしん】健康な心と体づくりを推進する	4
主な方策 成果と課題	<p>・一人一人の幼児を大切に思い、『登園してきてくれてありがとう』と、子どもたちを丸ごと受け入れる心持ちで接してきた。幼児同士も、登園して来る友だちを心待ちにし、互いに受け入れ合う雰囲気でも園生活を送ることができた。</p> <p>・教師から積極的に挨拶をしてきたことで、幼児同士で挨拶し合う姿が増え、徐々に挨拶の声が大きくなった。園外に出た時も、地域の人に自ら挨拶をかわすことで自分の存在が認められているという安心感を感じていた。</p> <p>・基本的な生活習慣は、日々言葉をかけたり、教師がモデルになって見せたりすることで、多くの幼児が身についた。教師に認めてもらうことで更に意欲が増し、主体的に身支度する姿へと変わっていった。</p> <p>・遊びの中で体を動かす楽しさを感じられるように、サーキット遊び等、意図的な環境設定を工夫してきた。幼児が興味を持ち、意欲的に取り組む姿が増え、体づくりにつながった。また、生活リズムや食事の大切さを保護者に伝えてきたこともあり、体力が付き欠席者も減った。</p>	
重点目標2	【わくわく】遊びや生活に主体的にかかわり、夢中になって遊び、楽しむ	3
主な方策 成果と課題	<p>・園内の豊かな自然を遊びに取り入れ、バーベキューごっこ、虫取り、落ち葉でのお風呂ごっこなど、友だちと楽しむ姿が見られた。様々な遊びを通して友だちとの関わりが深められるよう、小グループの遊びをクラス全体の遊びへ広げたことで、遊びや友達関係が更に深まった。</p> <p>・幼児が何に興味をもち、何を楽しんでいるのかを知り、教師と一緒に遊んだり、必要な教材を準備したりすることに努めてきた。遊びが広がり深まるには、教師が幼児に関わるタイミングやきっかけ作りが大きく作用する。ワクワクする環境の工夫、子どもとも思いきり遊ぶ楽しさを共感することを大切に今後も保育を進めていく。</p>	
重点目標3	【つながる】人とかかわる楽しさを味わう	3
主な方策 成果と課題	<p>・大好きな友だちがクラスの中にでき、言葉で伝え合う心地よさが味わえるようにしてきたことで、『うれしい』『いやだった』という気持ちを言葉で伝えらる幼児が増えた。また友だち同士が困っていると、気持ちを考え「その言い方はいやだと思うよ」など、相手の子の思いに気付けるようになった幼児もいる。</p> <p>・一人遊びや教師との関わりを楽しんでいると感じていた幼児の姿があった。友だちとの関わりが深まってほしいと思い、教師が気持ちを代弁し、周りの幼児と考える場をつくってきたことで、自分なりの言葉や表現で思いを伝えられるようになった。</p> <p>・異年齢の関わりを多くもつことができた。4歳児は5歳児に憧れながら園生活を送るようになり、5歳児は4歳児に教えてあげようと優しく接する姿が見られるようになった。</p>	

重点目標 4	【やってみる】様々なことに挑戦しようとする力を育てる	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して挑戦することで、できるようになる喜びを感じながら遊びを積み重ねる幼児の姿が多く見られた。(フラフープ・竹馬・スイングスキップ・縄跳び等)</li> <li>・運動会、発表会、当番活動、チャレンジタイム等で、幼児に経験してほしい遊びや活動を取り入れた。自分の役割があることに期待をもって取り組む姿が見られるようになった。</li> <li>・新しい事も教師と一緒に遊び、楽しさを共感できるようにしてきた。自分からやってみようと幼児の心が動くためには、教師が幼児と共に遊び込むかわりが必要である。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを通しての体づくりにおいて、年間を通して体づくりの遊びの設定ができるよう、年度当初に計画を立案し、学期ごとに見直すことで遊びの幅や経験を増やし体力づくりができるようにしていく。</li> </ul> <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿の共通理解を出発点にして、日々『幼児が主体的に遊ぶ』ことに意識をもちながら、幼児一人一人につけたい力の再確認、遊びの展開や見通しを保育後のカンファレンスで出し合うようにする。</li> </ul> <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の中で人とかかわる楽しさを味わいながら、相手に思いが言葉で伝わる喜びや友だちとのかわりで遊びがより楽しくなる経験を重ね、コミュニケーション力を高めていく。</li> </ul> <p>【重点目標4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい事に苦手意識のある幼児へのアプローチの方法や遊びの継続に必要な環境構成の工夫を、職員間で協力して考え準備していく。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立常磐中央幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	幼児の興味・関心や意欲が高まるなかまづくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児理解に努めると共に、それぞれの個性や持ち味が幼児間で認め合えるような援助・言葉がけを実践してきた。遊びを通して友だちのことを知ろうとする姿につながり、相手のことを思いやる気持ちを育むことができた。互いの思いを知り、受け入れたりする経験ができるよう対話する機会も大切にしたい。思いを伝える経験を積み重ねることで、協力したり折り合いをつけるなど互いに納得し認め合う関係を作ることができた。</li> <li>・ 幼児一人一人と教師が信頼関係を築きながら、個々の興味関心を丁寧に捉え、材料を準備し環境構成を行った。遊びの楽しさや面白さを感じ、好きな遊びを見つけることができた。また、友だちのしている遊びに関心を持ち、同じ空間にいる心地よさや、共に遊ぶ楽しさを味わうことができた。</li> <li>・ 教師が、言葉だけでなく身振りや表情で表現する幼児の姿を大切に、周りの幼児に互いの思いを伝えてきたことで、友だちのことを知ろうとする姿や幼児同士のかかわりにも変化が見られた。</li> <li>・ 幼児が意欲的に遊ぶ言葉がけや環境設定を考え今後も取り組んでいきたい。</li> </ul>	
重点目標 2	非認知能力を育成するための環境構成と援助の在り方	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園生活を通して、身の回りのことを自分でしようとする力がつくように見守りながら、適切な援助を行ってきた。職員間で情報を共有し幼児がやってみようとする関わりを心がけ、楽しく園で過ごし、自らしようとする意欲につながることができた。幼児一人一人の発達に応じた援助を繰り返し丁寧にやってきたことで幼児の自信につながった。</li> <li>・ 遊びや生活の中で、幼児自身が考えたり工夫したりするような言葉がけを心がけた。人形劇観劇後には、再現して遊べる場所や材料を整えることで、幼児が互いの思っていることを伝え合い遊ぶことができた。遊びを通して異年齢で憧れや思いやりの気持ちが育った。</li> <li>・ 遊びの中で試行錯誤し、時には自制したり、友だちと共に楽しむためにはどのようにしたらよいか考えるなど非認知能力を育むことにつながった。</li> <li>・ 遊びがより充実するには、教師が幼児の興味関心を捉え、環境設定することが重要である。教師自身も子どもとともに試行錯誤し遊びを深めていく必要がある。今後も取り組みを進めながら遊びを可視化、分析を深めたい。</li> </ul>	
重点目標 3	豊かな人間性および人とのかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4、5歳児が交流する機会を意識的に設けたことで、異年齢での関わりが深まり、遊びの中でも一緒に楽しむ姿があった。4歳児は5歳児の姿に憧れ、5歳児は4歳児に思いやりのある言動が見られた。</li> <li>・ 教師が幼児の姿を肯定的に捉え代弁してきたことで、幼児間においても、表情や仕草などから言いたいことを読み取ろうと、コミュニケーションをとる姿が見られた。</li> <li>・ 幼児一人一人を大切に、気持ちを受け入れていくことで、「先生が好き」「友だちが好き」と気持ちを表現する幼児が増えた。友だちの登園を喜び挨拶をしたり、友だちの保護者や地域の方、異年齢の幼児に積極的に関わっていく姿も見られた。</li> <li>・ コロナ感染症が5類に移行したことで、地域交流が広がり様々な人と関わる機会が増えた。また今年度は市の事業である地域人材を活かした体験型活動事業を通して、プロ選手と一緒にバスケットを体験したり、様々な楽器を使った演奏を聴いたりなど、五感を揺さぶる体験ができた。そうした経験の積み重ねが、幼児の感性や人間性を豊かに育んでいると思われるため、継続した取り組みをすすめていく。</li> </ul>	

重点目標 4	保護者・地域(保幼小中)との連携および職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は川島幼稚園と年間を通して交流の機会をもち、また地域の保育園2園とも交流を重ね、いろいろな人と接する機会をもつことができた。</li> <li>・保幼小中との連携においては情報共有する場を持つことはできているが、小学校との交流の機会を持っていない。小学校への期待と同じだけ不安もあり、小学校に出向いていく機会を働きかけていくことも必要であった。</li> <li>・人権プラザ赤堀に出かけ、集めたプルトップが車いすになる取り組みを知り、幼児だけでなく保護者にも発信することで園と家庭での取り組みとなった。</li> <li>・保護者との連携においては、保護者の不安や悩みを聞き信頼関係構築を図るよう心がけてきた。園からは毎日の幼児の様子などを伝え、保護者の不安や悩みを聞き、思いを認め共に成長を考えていくようにした。</li> <li>・幼児教育センターの研修に積極的参加、センター内の実技研修室で行う教材研究や幼児の興味・関心に合わせた図書、教師の課題に応じた専門書の貸し出しを通して、保育力の資質向上に努めた。今後も積極的に研修に参加し教師の自己研鑽に務める。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・教師自身の課題をより明確にし、園内外での研修で学んだことを実践に活かしていく。そのためにSPDCAサイクルによる教育活動の振り返りを定着させ、チーム力を向上させる。
- ・教師の幼児の捉え方は様々であるが、そのことが幼児の姿を多面的に捉えることにつながる。多面的な捉えから幼児への関わり方を考え、共通理解を図りながら、一人一人の幼児の成長につなげていくことができた。今後も継続して取り組んでいくようにする。
- ・幼児が意欲的に遊ぶ環境設定や援助について、幼児の姿を丁寧に捉え、何を感じどのようなことに興味、関心があるのかを常に考え、研修において学びを深め、保育力向上に努めていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 笹川中央幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生活習慣を身につけ、健康な体をつくる	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活リズムについては、文化の違いや家庭の状況などから、保護者との連携の難しさはあるが、園でできることから子どもたちとともに取り組んでいくことで、手洗い、うがいの習慣や自分のことは自分でするという習慣が身につけてきた。</li><li>・体づくりに重点を置き、戸外遊びや体を使った遊びを十分に楽しめるような環境づくりに意識して取り組んできたことで、意欲的に体を動かして遊ぶようになった。また様々な運動遊びに挑戦し、体力がついてきたことを感じる。今後は雨天時にも体を動かすことができる環境づくりについて取り組んでいく。</li><li>・食育については、文化の違いによって食べたことがないものが多く偏食がみられるが、栽培、収穫の体験のなかで、少しずつ食べてみようとする姿が見られ、おいしいと感じ、食べられる物が少しずつ増えている。</li></ul>	
重点目標2	互いを認め合い、温かい人間関係を育てる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・様々な言語を母語とする幼児が在籍する環境の中で、それぞれの幼児が自分の思いを表現した時に保育者がしっかりと受け止めながら、信頼関係を築いてきた。日本語の習得が進んできたことやいろいろな友だちと遊ぶ楽しさを味わう中で、簡単な単語やジェスチャーを交えながらコミュニケーションを取り、一緒に遊ぶ姿が見られるようになってきた。</li><li>・保育者も様々な文化や考え方があることを知り、園が安心できる場になるように一人一人の幼児の思いに丁寧に寄り添ってきたことで、のびのびと自分を表現し、人と関わる心地よさを感じている。</li><li>・保育者が多様性を受け止め、幼児の姿を肯定的に捉えることで、幼児同士もありのままの姿を受け入れる温かい人間関係が育っている。</li><li>・異年齢の交流については、戸外遊びやごっこ遊びを通じて自然に関わり合って遊ぶ姿がある。</li></ul>	
重点目標3	豊かな生活経験をし、聞く・話す・伝える力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・豊かな実体験の中で言葉を獲得していくことができるように意識して取り組んできた。また、言葉に視覚支援を添えて伝えることで、聞いて理解しようとする姿が育ってきた。</li><li>・「伝えたい」「伝わると嬉しい」という経験を積み重ねる中で、「日本語で話したい」という意欲が出てきて、日本語での伝え方や言葉を習得していくことができた。</li><li>・幼児同士の遊びの中で、日本語や身振り手振りで伝え合い、遊びの楽しさを共有することができた。</li><li>・絵本の読み聞かせについては、絵本のおもしろさを感じられるよう参加型のものから始め、徐々に言葉と絵を重ね合わせながら楽しむようになっていった。家庭教育講座として「しんちゃんの絵本ライブ」を行っているいろいろな絵本を読んでもらい、子どもも保護者も一緒に絵本のおもしろさを感じられる機会になった。週末には翻訳付きの絵本の貸し出しをして、家庭でも親子で絵本を楽しんでもらえるようにしてきた。</li></ul>	

重点目標 4	支え合い協力して取り組む保護者・地域・教職員	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの姿を毎日写真で掲示したりHPなどで伝えたり、登降園時に保護者と話をしながら園の取り組みや子どもたちの様子を伝えてきた。日頃会うことのできない保護者との連携の難しさを感じるが、懇談会や家庭訪問、参観等の機会を活用して、話をするようにしてきた。保護者アンケートの結果からは、保護者も幼児が成長した姿を感じ、幼稚園の教育に対する理解が得られているようである。</li> <li>・保護者同士もPTA主催の行事や園行事などを通して交流できる場を作ることで、つながってきている。</li> <li>・職員の勤務形態が様々であるため、職員間の連携が課題であるが、職員会議の内容を文書で共有したり、短い時間でも話をしながら共通理解できるような工夫をしている。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・保護者との連携については、保育参加の機会を増やし、保護者に園での様子を見てもらい、話す機会を回数を増やしていく。
- ・来年度は園内の行事を見直し、日々の活動の充実とともに地域探検などで年間を通して園外へ出かける機会を多く持つ。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重西幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分であろうとする姿を待ったり、認めたりすることで、自分のことを自分でする力が育った。しかし、一方では、励ましや声掛けがないと頑張れなかったり、大人に頼ったりする姿があった。</li></ul> <p>○戸外遊び、運動遊びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外遊びが大好きで、体を使った遊びが大好きな幼児に育った。</li><li>・諦めずに挑戦できるように、細かい目標を設定したり、できるようになったことを可視化したりすることで、やる気につながった。</li><li>・自宅探検、公園探検で地域を回ったり、三重幼稚園に歩いて行ったりして歩く経験をたくさんもったことで、体力がついた。</li></ul> <p>○栽培活動や食育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・季節の野菜や植物を育て、世話をする中で、生長の過程を知ったり、愛着がわいたり、食への興味につながった。</li></ul>	
重点目標 2	コミュニケーション能力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○思いの伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教師に思いを受けてもらう経験から、言葉で思いを伝え、相手の思いをわかろうとする姿につながった。また、友だちに対して否定的な見方をしなくなり、困っている子がいたら助けるようになった。</li></ul> <p>○話す、聴く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伝えたいことがたくさんあり、思いを言葉にし相手にわかるように話す力がついた。</li></ul> <p>△話したい思いが強く、相手の反応を待ったり、話してもいい場面か判断したりすることが難しかった。</p> <p>○三重幼稚園との合同保育</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・意図的に集団での活動を取り入れることで、たくさんの友だちと遊ぶおもしろさや気持ちが合う楽しさを味わうことができた。</li><li>・4歳児との交流で、思いやりや優しい気持ちを持つことができた。</li></ul>	
重点目標 3	学びにつながる意欲の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○一人一人の興味関心に応じた活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・幼児の思いが実現できるように、必要な環境を整えることで、もっとやりたいという意欲につながった。</li><li>・初めて経験する遊びは、やってみたい気持ちになるように環境を準備することで、繰り返し試したり、挑戦したりする気持ちが育った。</li></ul> <p>○友だちとの協同体験</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・対大人から友だち同士のつながりが持てるようにかかわることで、友だち同士で教えあったり、助け合ったりするようになった。</li><li>・幼児の考えを待つことで、友だちと考えたり協力したりして取り組み、充実感を味わうことができた。</li></ul>	

重点目標 4	家庭や地域・小学校・中学校などと連携した園づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>○家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会やファミリー参観などの行事に参加してもらい、園での幼児の姿を直接見ってもらう機会を多く作った。また、普段の登降園で、園や家庭での話をする事で、一緒に育ちを考えることができた。</li> </ul> <p>○地域や保幼こ小中との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域探検では、地域の公園や四季を感じる場所を知ることができた。</li> <li>・いろいろな人と交流することで、人とかかわる心地よさを味わうことができた。</li> <li>・コロナ禍以前の交流ができるようになり、積極的に交流を行った。交流後、刺激を受けたことを遊びの中で再現する姿もあり、よい機会となった。</li> <li>・地域の方にしてもらっただけでなく、今年は招待し、運動会、交流会を開いた。参加したすべての人が楽しめる内容を考えることで、より深くかかわることができた。</li> </ul> <p>○遊び会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在園児とかかわれる機会を作り、小さい子にかかわる経験をもつことができた。</li> </ul> <p>△毎回楽しめる内容を計画していたが、遊び会の参加者の数が少なかった。</p>	

## 2 改善方針

### 【重点目標 1 健康な心と体の育成】

- ・4歳児のうちから、自分のことは自分でする力をつけていく。

### 【重点目標 2 コミュニケーション能力の育成】

- ・話したい気持ちは大事にしながら、話してもいい場面か判断できるように、繰り返し伝えていく。

### 【重点目標 4 家庭や地域・小学校・中学校などと連携した園づくり】

- ・遊び会のお知らせの発信方法を、園内の掲示、広報、ホームページ以外で工夫していく。